

【巻頭言】

新年のご挨拶

会長 錦 成郎(54 回生)



新年あけましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。さて、昨年5月の広島総会で学友会会長にご指名いただいてから、もう半年が過ぎてしまいました。昨年は新型コロナウイルス感染症の分類が5類に変更になって、支部総会も対面で開催されることが多くなってきたことを心から嬉しく思っています。振り返って考えると、新型コロナウイルス感染症で強烈に印象に残っている情景にパンデミックの恐怖を挙げることができます。その後、重症化リスクと引き換えに強い感染力を得ながら変異を繰り返していく様子は、現代人が挑戦状を突き付けられているようにすら感じます。他方で、閉じこもりを強要された環境の副産物として、Web会議、Webinar(Web セミナ)が積極的に開催され、その利便性が明らかになりました。このツールは目的によって大変効果的である

ことを示してくれました。

さて、母校においては、玉木長良学長が2023年4月にご就任になって学内に新風が吹くなか、コロナ前にリニューアルされたのに未使用状態だった「あづまや」の利用がようやく解禁され、学内行事や保護者会との交流の場で利用できるようになりました。正直に嬉しかったです。今後は学生達のコミュニケーションの場として大いに活用していただき、本校の伝統である学年の垣根なく親しく交流できる学友関係の構築に役立てていただきたいと願っています。機会が合えば是非一緒に楽しみたいと思っています。

我々の診療放射線技師という職能は、他の専門職と違って放射線を安全に取り扱うという業務独占を保持して今日に至っています。最近、医師の働き方改革の下、チーム医療の一翼を担うための業務拡大が始まり、さらに多くの役割を担うことになりました。この変化は、まさに医療専門職の一員として医療に貢献できるチャンスであり、診療放射線技師にとって新たな未来を切り開ききっかけであって欲しいと考えています。一方で、診療放射線技師の魅力(独自性)を広く発信するためには、よりよい診療につながる技術、診療を支える技術や工夫などを、新たに開発(提案)するといった「研究活動」が大切になってくると考えます。診療放射線技師にとって研究とは、ルーチンをブラッシュアップし、さらに高度で安全な医療に役立つ技術を開発して一般に広めることの出発点です。日頃の疑問や不明なことを、自分たちで解決策を見つけて、より良くなる情報を共有しようではありませんか。

最後になりましたが、学友の皆様のご健康とご活躍を祈念して筆を置きます。皆様にとって良き一年でありますよう祈念しています。

以上